

## 6 コンプライアンス・リスク管理

### 【1】コンプライアンス（法令等遵守）

#### ①「T&D保険グループCSR憲章」、 「太陽生命コンプライアンス行動規範」及び 「コンプライアンス基本方針」の下に

当社では、役職員一人ひとりが生命保険業の公共的使命を認識し、コンプライアンスの徹底を重要な課題として取り組んでおります。コンプライアンスに関する基本方針として「T&D保険グループCSR憲章」、日常活動においてコンプライアンスを実践していくための原理・原則として「太陽生命コンプライアンス行動規範」及びコンプライアンス推進のための基本事項として「コンプライアンス基本方針」を制定しております。

これらCSR憲章やコンプライアンス行動規範の内容を全従業員に周知徹底するために研修等を行っております。

#### 太陽生命コンプライアンス行動規範

この太陽生命コンプライアンス行動規範は、私たち役職員が法令やルールに基づいて公正かつ適正な企業活動を行っていくための基本方針であり、日常活動においてコンプライアンスを実践していくための原則・基準を定めたものです。

1. 法令やルールの厳格な遵守
2. 公正かつ自由な競争の維持・促進
3. 適切な情報開示・説明
4. 適切な情報管理
5. インサイダー取引の禁止
6. 反社会的勢力への対応
7. 接待等の制限
8. 公私のけじめ
9. 人権の尊重

#### <経営者の責務>

太陽生命の経営者は、本行動規範の精神の実現が自らの責務であることを認識したうえで率先垂範し、グループにおける周知徹底と遵守のための指導に努めます。

#### HP 「太陽生命コンプライアンス行動規範」

[https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/activity/governance/compliance\\_management.html](https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/activity/governance/compliance_management.html)

毎年、コンプライアンス推進のための具体的な実践計画として「コンプライアンス・プログラム」を策定し、適正な業務遂行の徹底を推進しております。

また、業務遂行において遵守すべき法令等の解釈や、コンプライアンスに関する問題発見時の対処方法を具体的に示した「コンプライアンス・マニュアル（各職種別）」を作成し、手引きとして活用するとともに実践的な研修を実施しております。

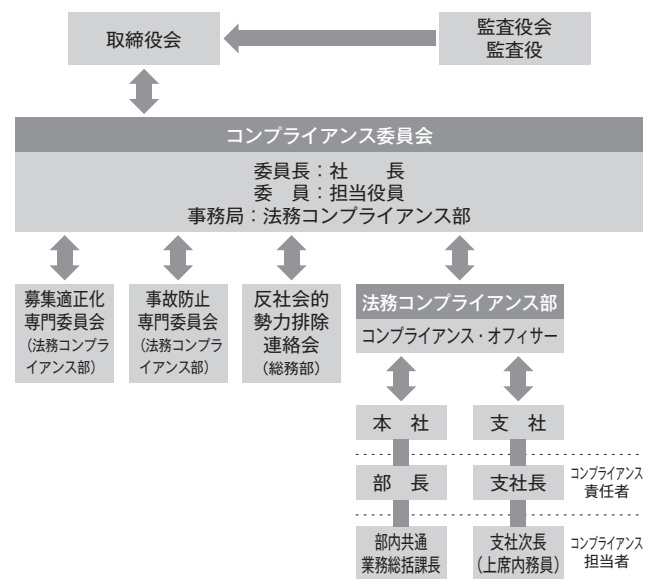
#### ②コンプライアンス委員会を中心とする運営体制

コンプライアンスに関する一元的な体制確立とその徹底を目的として、社長を委員長とし、業務執行を担当する全役員を中心に構成する「コンプライアンス委員会」を設置しております。コンプライアンス委員会ではコンプライアンスに関する事項の審議・検討を行い、その徹底を図っております。

推進統括部署は法務コンプライアンス部が担当し、コンプライアンスに関する情報収集から調査・分析・対応に至る一元管理を行っております。また業務運営現場におけるコンプライアンスを浸透・推進するために、「コンプライアンス担当者」を全支社・本社各部に配置し、効果的な研修等を行っております。

一方、法令等遵守状況を監視し、助言等を行う「コンプライアンス・オフィサー」を配置し、法令等違反の未然防止と早期是正に努めております。

#### 【コンプライアンス体制】



### ③社内通報制度

職場における法令等違反の早期発見及び早期是正を図るため、T&D保険グループの全役職員が利用できる通報制度「T&D保険グループヘルプライン」を設置しております。通報内容は事実確認の上、法令等違反が認められれば、関係者の処分とともに速やかに是正措置及び再発防止を講じ、通報者にもその対応状況を通知しております。

### ④コンプライアンス教育

全従業員を対象として、各職場でコンプライアンス研修を通年で行ってまいります。

毎年、営業職員・顧客サービス職員編、内務員編、代理店編等の職種別のコンプライアンス・マニュアルを作成し、実践的な研修を実施しております。

このコンプライアンス・マニュアルには業務遂行において遵守すべき法令等の解釈や、コンプライアンスに関する問題発見時の対処方法を具体的に示しております。

特に営業職員は、適切な保険募集に係るコンプライアンスについて、毎月2～3回、全社共通のテーマで繰り返し研修を行い定着を図っております。

### ⑤反社会的勢力との関係遮断のための基本方針

＜基本方針＞

当社は、太陽生命コンプライアンス行動規範の「私たちは、市民社会の秩序や安全をおびやかす反社会的勢力や団体に対しては、毅然とした態度で対応し、断固として排除します。」という宣言に準拠し、以下のとおり反社会的勢力対応に関する基本方針を定めています。

#### 1. 組織としての対応

反社会的勢力からの不当要求に対しては、担当者や担当部署だけに任せずに、組織全体として対応します。また、反社会的勢力からの不当要求に対応する役職員の安全を確保します。

#### 2. 外部専門機関との連携

反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から、警察、暴力追放運動推進センター、弁護士等の外部専門機関と緊密な連携関係を構築します。

#### 3. 取引を含めた一切の関係遮断

反社会的勢力とは、取引関係を含めて、一切の関係を遮断します。また、反社会的勢力による不当要求は拒絶します。なお、他社（信販会社等）との提携によって融資取引等を実施する場合も同様とします。

#### 4. 有事における民事と刑事の法的対応

反社会的勢力による不当要求に対しては、民事と刑事の両面から法的対応を行います。

#### 5. 裏取引や資金提供の禁止

反社会的勢力の不当要求が、事業活動上の不祥

事や役職員の不祥事を理由とする場合であっても、事案を隠ぺいするための裏取引は絶対に行いません。また、反社会的勢力への資金提供は、絶対に行いません。

＜反社会的勢力対応に関する規程＞

「T&D保険グループCSR憲章」、「太陽生命コンプライアンス行動規範」の中で反社会的勢力に対しては断固として排除することを宣言しております。

この宣言の下、「反社会的勢力対応に関する基本方針」「反社会的勢力排除対応規程」「反社会的勢力排除対応細則」を制定し、組織全体として反社会的勢力に対応できるよう基本的事項について定めております。

＜反社会的勢力対応への取組み＞

当社は、反社会的勢力の全社的な排除体制の強化を目的として「反社会的勢力排除連絡会」を設置し、社内及び警察等外部専門機関との連携、暴力団等の反社会的勢力に関わる対応策の協議、社内教育・意識啓蒙の推進等を行っています。

また、「総務部」を反社会的勢力対応に関する統括部門とし、不当要求等反社会的勢力の関与が疑われる事案や情報を入手した場合は、速やかに総務部へ報告する等、一元的な管理体制を構築しています。

その他、本社・支社において「不当要求防止責任者」を配置し、各部署との連絡、対応体制の整備及び従業員への教育に努めるとともに、所轄の警察署、暴力団追放運動推進センター等と連絡を密にして情報交換・指導・支援が受けられる体制を保つなど、反社会的勢力の排除や関係遮断に向けて組織全体で取り組んでいます。

## [2] リスク管理の体制

### ① リスク管理の基本的な考え方

保険事業を取りまく環境が急速に変化の中で、経営の健全性を確保するため、リスクを把握・分析し、経営体力を踏まえた適切なリスク管理に努めております。

現在、保険引受リスク、資産運用リスク、流動性リスク、事務リスク、システムリスク、法務リスク、労務人事リスク、災害リスク、風評リスク、関連会社等リスクにリスクを分類しております。これらのリスクのうち、極小化すべきリスクについては防止に向け、また、能動的に引き受けるリスクについては自己資本等経営体力を踏まえた適正水準に制御するために、適切にリスクを管理できる内部管理体制を整備しております。

また、外部環境の変化も踏まえ、リスク特性に適った管理を充実させるため、資産・負債を時価評価する「経済価値ベースの統合的リスク管理」を継続して行っており、今後は更なる高度化に向けて取り組んでまいります。

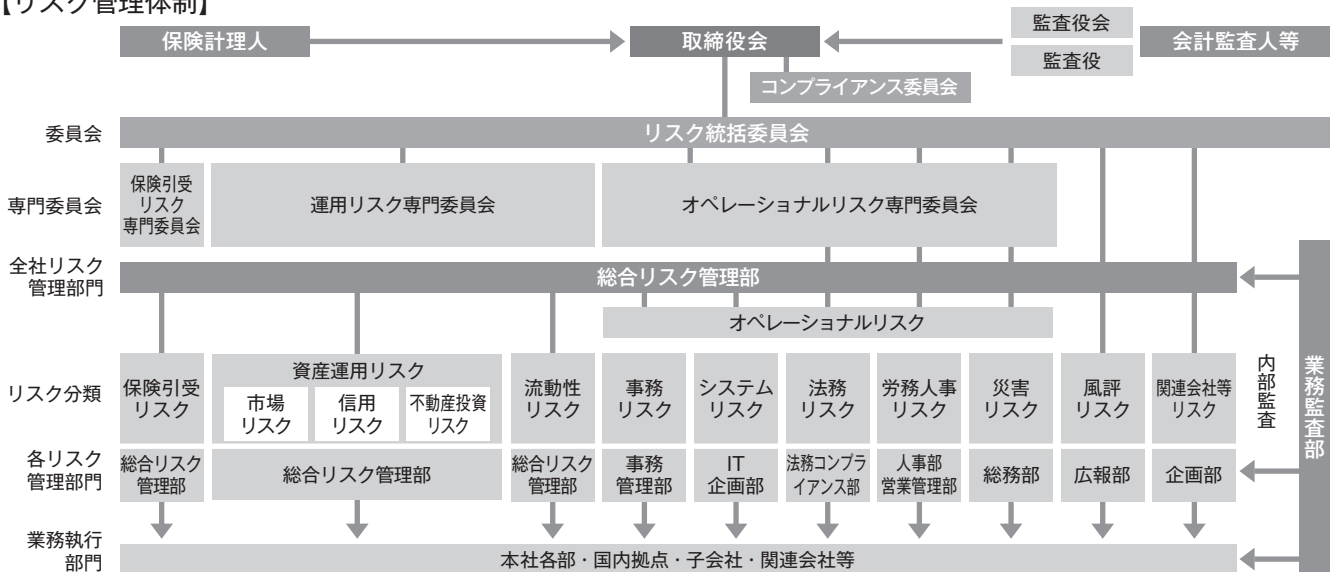
### ② リスク管理体制

リスク管理にあたっては、取締役会で定めた「リスク管理基本方針」の下、リスク管理に関する一元的な体制の確立及びリスク管理の徹底を期することを目的として、「リスク統括委員会」を設置しております。また同委員会の下部組織として、保険引受リスク専門委員会、運用リスク専門委員会及びオペレーショナルリスク専門委員会を設置し、専門的・実務的な観点からリスク管理に関する審議を行っております。

一方、各リスク分類ごとに収益部門とリスク管理部門を分離することにより相互牽制機能を確認し、さらに総合リスク管理部を設置し、各リスクを統括的に管理する体制を整えております。

なお、T&Dホールディングスを中心に、グループとしてのリスク管理体制の整備・充実も図っております。

#### 【リスク管理体制】



## 【リスクの分類と対応について】

リスクの分類	リスクの定義	リスクの対応
保険引受リスク	経済情勢や保険事故の発生率等が保険料設定時の予測に反して変動することにより損失を被るリスクをいいます。	新規保険商品の開発・販売及び既存保険商品の改定について、保険引受リスクの観点から評価・分析するとともに、販売後も継続的に保険引受リスクの把握・分析を行っております。
資産運用リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市場リスク 金利、有価証券の価格、為替等のさまざまな市場のファクターの変動により、資産・負債（オフバランスを含む）の価格が変動し損失を被るリスクをいいます。</li> <li>●信用リスク 信用供与先の財務状況の悪化等に伴い、資産（オフバランスを含む）の価値が減少ないし消失することにより損失を被るリスクをいいます。</li> <li>●不動産投資リスク 賃貸料等の変動を要因として不動産にかかる収益が減少する、または市況の変化等を要因として不動産価格自体が減少することにより損失を被るリスクをいいます。</li> </ul>	<p>合理的な手法により資産運用の各リスク量を把握し、そのリスク量が自己資本等から算定した許容範囲に収まるようリスクコントロールに努めております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市場リスク 市場リスクに関しては、運用環境の変化に対する保有資産の感応度を把握するとともに、代表的な指標であるバリュアット・リスク（VaR）による測定等により、リスク管理を実施しております。</li> <li>●信用リスク 貸付先を中心に自己査定と連動する社内格付を設定し、信用ランクに応じたリスク管理や与信集中度に応じたリスク管理を実施しております。 なお、これらの個別与信先の管理に加え、ポートフォリオの信用リスクをコントロールするためにVaRによる信用リスクの計量的管理も実施しております。</li> <li>●不動産投資リスク 含み損益の状況や投資利回りの状況等に応じて保有不動産ごとに管理方法を定め、リスク管理を実施しております。なお、不動産投資リスクをコントロールするために、VaRによるリスクの計量的管理も実施しております。</li> </ul>
流動性リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資金繰りリスク 事業収支の悪化、巨大災害での資金流出等により資金繰りが悪化し、資金の確保に通常よりも著しく低い価格での資産売却を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。</li> <li>●市場流動性リスク 市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資金繰りリスクの状況をその逼迫度に応じて区分し、各区分に応じた管理方法を定めることで、資金調達のために資産の流動化を円滑に行うことができる措置をとるようしております。</li> <li>●市場流動性リスク 市場流動性リスクが生じる懸念が生じた場合は、必要に応じて資産に応じた適切な取引限度額を設定するなどの対応を行っております。</li> </ul>
事務リスク	役職員等が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正・情報漏洩等を起こすことにより損失を被るリスクをいいます。	事務規程等の整備、事務処理の適正化・効率化向上等のための各種研修及びその推進を目的とした事務指導を実施するなど、事務リスクの未然防止・軽減に努め、正確で信頼性の高い事務管理体制を整備しております。
システムリスク	コンピュータシステムのダウンまたは誤作動等、システムの不備等に伴い損失を被る、またはコンピュータが不正に使用されることにより損失を被るリスクをいいます。	コンピュータシステムをさまざまなリスク（故障・災害・誤処理・不正使用・破壊・盗難・漏洩等）から保護するために、関連規程類を整備し、システムリスクの発生防止・軽減に努めております。
法務リスク	諸法令等の遵守を怠ること等により、損失を被るリスクをいいます。	法務コンプライアンス部及び弁護士による法務審査を実施し、法務リスクを防止・極小化するよう努めております。
労務人事リスク	雇用問題、労務管理、人材流出、人権問題など、労務・人事上のトラブルが発生することにより損失を被るリスクをいいます。	雇用問題、労務管理、人材流出、人権問題などの労務・人事上のトラブルの発生を把握、分析し、労務人事リスクの発生防止、軽減に努めております。
災害リスク	大規模災害等に対する予防対策、あるいは発生時の緊急措置体制が整備されていないことにより損失を被るリスクをいいます。	実際に災害が発生した場合でも被害・損失を軽減できるよう、予防対策、緊急時の措置について関連規程・マニュアル類を整備するとともに、各種訓練を定期的実施しております。
風評リスク	当社及びT&D保険グループまたは生命保険業界に関する悪評・信用不安情報等が保険契約者、投資家、マスコミ、インターネット、その他社会一般等に広がり、当社の業績に悪影響が生じ損失を被るリスクをいいます。	風評リスクに関する情報、噂の収集を図り、その発生の防止に努めるとともに、風評リスクが発生した場合は被害を最小限に抑えられるよう措置を講じるようしております。
関連会社等リスク	関連会社及び関連会社以外の事業投資先において収支が悪化あるいは各種リスクが顕在化すること等により当社が損失を被るリスクをいいます。	各関連会社及び事業投資先ごとにリスク管理体制の構築を進めるとともに、リスク発生状況を把握することにより、適切な措置を講じるようしております。

(注) 当社では上記リスクのうち事務リスク・システムリスク・法務リスク・労務人事リスク・災害リスクをオペレーショナルリスクと総称しております。



### 〈定量的リスク管理について〉

資産運用リスクに加え、保険引受リスク等を含む会社全体のリスクのうちで定量的評価が可能なものについて、当社の内部モデルによって一定の信頼水準（1年、VaR99.5%の水準）で数値化して把握し、保有するリスクの水準が当社の経営体力（資本等）の範囲内にコントロールされていることを検証しております。このリスク量の計測方法等については、継続して高度化を進めており、より緻密なリスク管理の実現に取り組んでおります。

### 〈ストレステストについて〉

当社では、グループ共通のシナリオ等に基づくストレステストを定期的実施しております。

ストレステストとは、多額の損失を引き起こしうる極端な事象の発生に対して会社にどの程度のリスク対応力があるかを測るために用いられる手法であり、VaR等に基づくリスク管理手法を補完するものと位置付けております。

具体的には、株価の大幅な下落、金利の急激な上昇、大地震発生等のストレスシナリオに基づく損失額を算出し、リスク対応力を検証するとともに、経営の健全性確保のための判断材料として活用しております。

### 〈責任準備金対応債券について〉

当社では、アセットミックスによりポートフォリオ全体のリスク減殺効果を図り、負債コストを中長期的に上回ることを目指したバランス型ALMに基づく運用方針を立て、管理しております。

このような運用方針を踏まえ、「保険業における『責任準備金対応債券』に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会）に基づいて、債券と責任準備金のデュレーションマッチングにより金利変動リスクを回避することを目的とした責任準備金対応債券を区分して運用しております。

### 〈再保険を付す際の方針について〉

保険収支の安定化、引受能力の補完等を目的として必要に応じて再保険を活用しております。保険契約のリスクに応じた所定の金額を超える部分の保険金や、特別な条件を付けて締結されるリスクの高い契約の一部を再保険として出再することにより、当社が保有するリスクの適正化を図っております。

また、再保険先は、主要格付機関から一定レベル以上の格付けを得ており、十分な保険財務力を有する再保険会社の中から選定しております。

### 〈ALM管理体制について〉

当社では、収益、リスク及び資本を一体的に管理することを目的として、経営執行会議（※）の下部

組織としてERM委員会を設置し、資産と負債の評価・分析及び管理等について審議・検討を行っております。

また、保険契約者間の公平性の確保、事業運営の透明性及び一層の経営効率化の推進の観点から、商品区分ごとに分別管理を行う区分経理を実施し、その適正な運用を図っております。

※経営の意思決定機能と業務執行機能を分離することを目的に、業務執行に関する重要事項について社長及び社長の指名する執行役員で構成する経営執行会議で審議を行い、審議結果を取締役会に報告しております（執行役員は取締役会の決議によって定められた分担に従い業務を執行いたします）。より専門的な審議・検討を行うため、経営執行会議の下部組織に各種委員会等を設置しております。

### ③危機管理体制

当社では、大地震等の大規模災害やコンピュータシステムの停止等を要因として、経営に重大な影響を与える緊急事態が発生した場合には、「危機対応規程」に基づき「危機対策本部」を設置し、危機事態の収束に向けた対策を実行する体制としております。

また、大地震や新型インフルエンザ等の危機事態が発生した場合においても、継続すべき非常時優先業務を保険金等支払業務と定め、当該業務を危機事態発生時においても継続しうる態勢を確保するため、事業継続計画（Business Continuity Plan）を整備し、危機管理体制の強化・充実を図っております。

### [3] 金融ADR制度

「ADR制度」とは裁判外紛争解決制度のことで、身の回りで起こるトラブルを、裁判ではなく、中立・公正な第三者にかかわってもらいながら、柔軟な解決を図る制度です。この制度の金融分野に関するものが金融ADR制度で、平成22年10月1日に開始されました。

生命保険業界では、一般社団法人生命保険協会が生命保険等の裁判外紛争解決手続を行う「指定紛争解決機関」に指定されました。当社も平成22年10月1日付で、一般社団法人生命保険協会との間で「手続実施基本契約」を締結しております。

〈お申出先〉

一般社団法人 生命保険協会 生命保険相談所  
指定紛争解決機関（指定ADR機関）である生命保険協会（03-3286-2648）にてお申出を承ります。

中立・公正な立場から紛争解決支援を行い、裁判よりも迅速な解決を図り、ご利用は無料です（ただし、交通費、電話料等はご負担いただきます）。

相談受付日時は、9時～17時（土・日曜、祝日・年末年始を除く）となっております。

## 【4】お客様の個人情報の保護

### ①プライバシーポリシー（個人情報の保護にかかわる基本方針）

当社では、お客様からの信頼を第一と考え、「個人情報の保護に関する法律」及び関係法令等を遵守するとともに、個人情報の保護と安全管理に関する方針を定め、お客様の個人情報について適正な取り扱いに努めております。

#### 1.個人情報の取得・利用目的

お客様とのお取引を安全確実に進め、より良い商品・サービス提供等をさせていただくため、必要な範囲でお客様に関する個人情報を取得させていただいております。これらの個人情報（当社が既に取得し管理しているものを含みます。）は、

- ①各種保険契約の引受け、ご継続・維持管理、保険金・給付金等のお支払い
- ②融資お申込みの場合における審査、融資契約の締結・維持管理
- ③関連会社・提携会社を含む各種商品・サービスのご案内・提供、ご契約の維持管理
- ④当社業務に関する情報提供・運営管理、商品・サービスの充実（新しい商品・サービスの開発を含みます。）
- ⑤その他保険に関連・付随する業務などの目的のために利用します。

個人情報の利用目的は、あらかじめホームページによる公表等を行い、それ以外の場合は、取得後速やかにご本人に通知、もしくはホームページによる公表等を行います。当社は、このように公表または通知した利用目的の範囲を超えて、お客様に関する個人情報を利用することはありません。

#### 2.個人情報の適正な取得

当社は、適法かつ公正な手段によって、お客様の個人情報を取得します。

お客様ご本人から書面により個人情報を取得する場合等は、あらかじめご本人に対し、その利用目的を明示します。

また、個人情報の利用目的を変更した場合は、変更された利用目的についてご本人に通知、または公表します。（ただし、利用目的の通知、公表、明示について、法令にもとづき不要と規定されている場合を除きます。）

#### 3.個人データの提供

当社では、つぎの場合を除いてお客様に関する個人データを第三者に提供することはありません。

- ①法令により必要と判断される場合
- ②法令により許容されている場合（利用目的の達成に必要な範囲内において、個人データの取り扱いの全部または一部を委託する場合の委託先への提供などが含まれます。）
- ③お客様が事前に同意されている場合

#### 4.個人データの安全管理

お客様に関する個人データは、正確性保持に努め、これを安全に管理するために適切な措置を講じます。

また、お客様に関する個人データの漏洩、滅失またはき損を防止するため、不正アクセス、コンピュータウィルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じます。

#### 5.保有個人データの開示・訂正

お客様からご自身の保有個人データに関する開示・訂正の依頼があった場合は、請求者がご本人であることを確認させていただいたうえで、特別な理由がない限り文書にて回答、訂正いたします。

#### 6.継続的改善

当社は、個人情報の保護を推進するため、プライバシーポリシー及びその他の個人情報保護にかかわる規程を策定し、これを当社の従業者、その他関係者に周知・徹底させて実施します。

基本方針・規程等は、これを遵守し、継続的に改善します。

また、当社は、個人情報にかかわるお客様のお申出等の対応に適切に取り組んでまいります。

#### 7.お問い合わせ窓口

当社の個人情報の取り扱い、管理、及び個人情報にかかわる諸手続に関するご質問、お申出等につきましては、下記お客様サービスセンターまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

太陽生命保険株式会社

お客様サービスセンター

TEL:0120-97-2111

営業時間 月～金曜日 9:00～18:00

土・日曜日 9:00～17:00

休業日 祝日・年末年始（12月30日～1月4日）

## ②保有個人データの開示・訂正等の請求方法

「個人情報の保護に関する法律」第24条第2項、第25条第1項、第26条第1項、ならびに第27条第1項及び第2項に基づき、ご本人またはその代理人は、当社が保有する個人情報に関して、利用目的の通知、開示、訂正等、利用停止及び第三者提供の停止等を求めることができます。(以下、これらの手続を総称して「開示請求等手続」といいます。)

### 1. 開示請求等手続の対象となる保有個人データの項目

氏名、住所、電話番号、生年月日、勤務先(勤務先名または職業・電話番号)、契約内容に関する情報、契約内容変更に関する情報等

### 2. お問い合わせ窓口

最寄りの当社窓口またはお客様サービスセンター

- ・当社窓口(平日9:00～15:00、または、9:00～16:00、各店舗の所在地・営業時間・取扱業務については、ホームページ内をご覧ください。)

(土・日・祝日・年末年始(12月30日～1月4日)を除く)

- ・太陽生命保険株式会社お客様サービスセンター(電話受付)

TEL:0120-97-2111

(平日9:00～18:00、土・日曜日9:00～17:00)

(祝日・年末年始(12月30日～1月4日)を除く)

### 3. 受付方法

来社または郵送

### 4. お申込者の範囲、ご提出いただく書類

- (1) お申込者の範囲:ご本人またはその法定代理人、もしくはご本人が委任した代理人
- (2) ご提出いただく依頼書:当社所定の「個人情報開示依頼書」、「個人情報利用目的通知依頼書」、「個人情報訂正等依頼書」、「個人情報利用停止依頼書」、「個人情報第三者提供停止依頼書」
- (3) ご提出いただく本人確認書類
  - a. ご本人によるご請求の場合
    - ・ご本人の写真付証明書(運転免許証・パスポート)、健康保険証、年金手帳
  - b. 代理人(未成年後見人、成年後見人、ご本人が委任した代理人等)によるご請求の場合
    - (ア) ご本人の写真付証明書(運転免許証・パスポート)、健康保険証、年金手帳
    - (イ) 代理人ご本人の写真付証明書(運転免許証・パスポート)、健康保険証、年金手帳

(ウ) 以下のうちいずれか一点

- ・委任状(ご本人が印鑑証明書の印(印鑑証明書を添付)を押印ください。)
- ・法定代理人であることを確認できる書類(戸籍謄本・登記事項証明書等)

※写真付証明書(運転免許証・パスポート)、健康保険証、年金手帳、登記事項証明書はコピーを送付願います(郵送の場合)。

(4) 手数料振込依頼書の領収証(控え)のコピー

(5) 訂正の必要があることを証する資料(訂正依頼の場合)

※提出いただいた書類(依頼書、本人確認書類等)については返却いたしません。

### 5. 手数料

個人情報の保護に関する法律第24条第2項に基づく利用目的の通知及び第25条第1項に基づく開示請求の場合は、下記の手数料をいただきます。

<手数料のご案内>

手数料一件あたり1,000円

(同封の払込取扱票により、お振り込みください。)

### 6. 回答方法

当社が完備した必要書類を受領後、遅滞なく書面にて「ご本人」様宛に本人限定受取郵便でご郵送させていただきます。(お受け取り時には本人確認書類をご用意ください。)代理人によるご請求の場合であっても、後見開始決定書または戸籍謄本等、代理権の有無及びその範囲が確認できる資料をご提出いただいた場合(この場合には、代理人様宛にご郵送いたします)を除き、ご本人様宛にご郵送いたしますのでご了承ください。

### 7. 開示請求等手続に関して取得した個人情報の利用目的

開示請求等手続により当社が取得した個人情報は、当該手続きのための調査、ご本人ならびに代理人の本人確認、手数料の徴収、及び当該開示及び訂正等の請求に対する回答に利用いたします。

### 8. 開示しない場合のお取扱い

以下に定める場合は、ご本人に関する保有個人情報の全部または一部につき開示いたしかねますので、予めご了承ください。開示しないことを決定した場合は、その旨ご通知申し上げます。

また、開示しなかった場合についても、所定の手数料をいただきます。

- (1) ご本人の確認ができない場合
- (2) 代理人によるご請求に際して、代理権が確認できない場合
- (3) 所定の請求書類に不備があった場合



- (4) 所定の期間内に手数料のお支払いがない場合
- (5) ご請求のあった情報項目が保有個人データに該当しない場合
- (6) 本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- (7) 当社の業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- (8) 他の法令に違反することとなる場合

## 9. 訂正、利用停止、第三者提供しない場合のお取り扱い

- (1) 当社は、保有個人データの訂正の依頼を受けた場合において、必要な調査の結果、全部または一部について、訂正を行わないことがあります。訂正しないことを決定した場合は、その旨ご通知申し上げます。
- (2) 当社は、保有個人データの利用停止の依頼を受けた場合において、当該求めに理由がない場合には、利用停止を行いません。また、保有個人データの利用停止等に多額の費用を要する場合その他の利用停止等を行うことが困難な場合には、本人の権利利益を保護するため必要なこれに代わるべき措置をとることがございます。利用停止を行わないことを決定した場合及び上記の代わるべき措置をとることとした場合には、その旨ご通知申し上げます。
- (3) 当社は、保有個人データの第三者への提供の停止の依頼を受けた場合において、当該求めに理由がない場合には、第三者への提供の停止を行いません。また、保有個人データの第三者への提供の停止に多額の費用を要する場合その他の第三者への提供を停止することが困難な場合には、本人の権利利益を保護するため必要なこれに代わるべき措置をとることがございます。第三者への提供の停止を行わないことを決定した場合及び上記の代わるべき措置をとることとした場合には、その旨ご通知申し上げます。

## 10. 保有個人データの利用停止について

当社の保有しているお客様の個人データについて当社が利用することの停止をお客様が希望される場合は、電話または当社窓口にて契約者ご本人がお申し出願います。なお、ご契約の適切な管理に必要な通知（例えば失効に関する通知等）は除きます。

## 11. 認定個人情報保護団体

当社は、認定個人情報保護団体である一般社団法人生命保険協会の対象事業者です。同協会では、対象事業者の個人情報のお取扱いに関する苦情・相談を受け付けております。

＜お問い合わせ先＞

生命保険協会生命保険相談室

TEL:03-3286-2648

〒100-0005

千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル3階

受付時間：9:00～17:00

（土・日曜、祝日などの生命保険協会休業日を除く）

ホームページアドレス<http://www.seiho.or.jp/>